

教育委員意見交換会

日 時 令和 7 年 9 月 26 日（金曜） 午後 2 時 28 分～午後 5 時 00 分

場 所 堺市役所 本館 3 階大会議室第 3 会議室

出席者 関百合子教育長 豊岡敬委員 新谷奈津子委員 大内秀之委員

（事務局） 櫻田浩樹教育次長

富岡重幸教育監

北野雅史教委総務部長

守谷奈津見美教職員人事部長

宇野敬子教職員企画課長

渡邊耕太学校教育部長

橋本宏司学校改革推進室長

井村美穂教育センター所長

尾下英夫能力開発課長

峯耕一郎学校管理部長

熊田典子学校給食課参事

花木義幸文化課長

居谷 達矢教育政策課長

杉本篤史教育政策課課長補佐

楠本奈央子教育政策課企画係長

案 件

- ・第 3 期堺文化芸術推進計画（骨子案）について
- ・AI 食事管理アプリ「あすけん」を活用した食育推進について
- ・堺が進める「新たな学校のあり方」に関する取組状況について
- ・第 2 回総合教育会議について
- ・令和 7 年度堺市教育委員会表彰（職員栄誉の部・業務功績の部・教育功績の部）の被表彰候補者の決定について
- ・次期堺市教育振興基本計画について
- ・その他非公開案件 1 件

・第 3 期堺文化芸術推進計画（骨子案）について

令和 3 年度に策定した「第 2 期堺文化芸術推進計画」の計画期間が令和 7 年度末で満了するため、次期計画である「第 3 期堺文化芸術推進計画」の骨子案について説明。

（主な意見）

- ・ 第 3 期堺文化芸術推進計画の骨子案に記載されていることは、堺や日本の文化芸術に限られている。海外にルーツを持つ子どもたちにとっての歴史・文化芸術をどのように守り、交流させていくのかあまり記載されていない印象であるが、別のところで取り組まれているのか。
- 自由都市・堺文化芸術まちづくり条例第 18 条で、国際的な文化芸術の交流について規定している。第 3 期堺文化芸術推進計画の骨子案では、条例に基づく計画の大きな方向性を抜粋して記載しており、計画では、国際的な文化芸術の交流についても観点の一つとしている。

・AI 食事管理アプリ「あすけん」を活用した食育推進について

「あすけん学校教育向け」サービスを市立中学校の生徒が使用できるよう整備したことについて報告。

（主な意見）

- ・ 堺市の給食のメニューが入力されるのか。

- 業者に給食のデータを送付し、登録してもらっている。堺市の子どもたちは、学校給食課から配付した ID とパスワードを入力することで見られる。
- ・ 朝食と夕食は写真を撮ってアップロードし、昼食の給食は自動的に入力されるため、1 日の食事のバランスを見ることができのか。
- 給食は実際に食べた分量を入力することで個々の子どもたちの栄養価が分かる。自宅のスマートフォンでも使用が可能。中学校在籍中は、スマートフォンで食事の写真を撮ると、食事内用を自動で入力できる機能も使用できる。
- ・ 他市では、保護者が給食のメニューを把握することができるため、晩御飯を決めることができて便利だという事例があるが、そのような活用はできるのか。
- こどもの ID とパスワードが分かれば、その日のメニューを見ることができる。基本的にはこども自身の食事の記録用で自分の食事の栄養価の評価を見て食生活を振り返るために使うものである。なお、給食のメニューは市ホームページでも公開している。
- ・ 人間ドックで前日の食事の写真を撮ると指導してくれるものと同様で、写真を撮るだけでカロリーが分かり、一週間のバランスやカロリーが分かるのはとても便利であるため、健康管理には役立つと思う。
- ・ 家庭科の授業での活用などは予定しているか。授業や宿題で使うなどのインセンティブがないとアプリを使うことも使わないこどもで分かれてしまうかもしれない。
- 授業用に開発されたものではないため、研究授業を通して検証し、授業でも活用できるように今後検討していきたいと思う。夏休みの食事生活の記録を取るなどの活用方法もあるため、検討したい。

・堺が進める「新たな学校のあり方」に関する取組状況について

令和 7 年度上半期の「新たな学校のあり方」に関する取組状況について報告。

（主な意見）

- ・ 学校間連携を推進・発信するだけでは教職員の行動の変容を促すことはできない。強調すべきところは、教職員のウェルビーイング・幸福度を上げるためのものであり、その視点で取り組んでもらうことである。それが最終的には教育の向上、児童生徒の幸福度を上げていくことに繋がると思う。自分の教員人生をより良くするためにどうするのかという視点が出发点で、その結果として働き方改革や研修・支援プログラムの充実、協力し合える職場環境のためのニーズ分析等から取り組んでもらえればいい。出发点をしっかり強調することで全校展開しても全体として自然に動いていくと思う。
- 選択肢や可能性を広げるため近隣の学校と身近なつながりを作ることで、子どもたちのために行動しようと模索している教職員の背中を押せるような発信をしたい。また、働き方改革の観点では、教材のシェアや一緒に活動することがより効果的であると実感してもらえることが大事である。そのため、他の学校で実践されているアイデアや工夫を発信し、参考にしてもらえる環境を作ること自分たちの役割であると考えている。
- ・ 学校間連携を進めるにあたって、大切にしている視点はこういったところか。
- 教職員は、自身の経験の積み重ねから実践を行う、いわゆる「暗黙知」による実践が多い。今後、教職員の異動や、若い教職員が増えること、また、協働の必要性が高まることを想定した場合、属人的ではなく、学校として継続して取り組める状況を作ることが大切である。そのためには、令和 7 年度に作成した学校間連携に関する参考事例集のような、形として残る知識、いわゆる「形式知」として様々な教育実践を可視化・データ化して共有できる仕組みの構築や内容の充実を図りたい。
- ・ 施策の背景や目的等を多くの人に分かりやすく知ってもらえる工夫が必要ではないか。
- 伝えたいことが伝えられる方法を試行錯誤する。

・第 2 回総合教育会議について

令和 7 年度第 2 回総合教育会議について、概要等を説明。

・令和 7 年度堺市教育委員会表彰（職員栄誉の部・業務功績の部・教育功績の部）の被表彰候補者の決定について

令和 7 年 9 月 24 日開催の表彰審査会で被表彰候補者を決定したことについて報告。

（主な意見）

- ・ 特になし。

・次期堺市教育振興基本計画について

次期堺市教育振興基本計画について、教育委員、懇話会構成員等の意見に対する対応を報告。また、意見を踏まえ作成した計画素案について説明。

（主な意見）

- ・ 最初に施策体系の一覧を示すことで、本計画の全体像を把握した上で読み進めることができるようになる。
- ・ すべての人が最初のページから読むとは限らず、個々の興味や必要に応じて知りたい情報にアクセスしやすくするため、ページに色を差し込むなどするとよいと思う。